

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590600213		
法人名	社会福祉法人 晩会		
事業所名	グループホーム あかつき防府		
所在地	防府市大字江泊1790番地		
自己評価作成日	平成26年11月13日	評価結果市町受理日	平成27年10月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成26年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者に住み慣れた地域で暮らしているとの実感を持ってもらう為に、積極的に地域の中に足を運び、暮らしを感じる機会を取り入れるようにしている。隣接している公民館の行事等(文化祭や夏祭りなど)への参加や、時には、利用者の趣向にあわせた場所へ外出(美術館、水族館など)を行い、生活の中での楽しみを感じれるように努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周辺の散歩やスーパーでの買い物時に地域の人と挨拶を交わされたり、公民館の夏まつりや文化祭に利用者と職員と一緒に参加され地域の人と交流しておられるなど、利用者が地域の中で暮らしていけるように支援されています。管理者や職員は、利用者が季節を感じる機会として外出の場を捉えておられ、道の駅めぐりや季節の花見、美術館、公園、水族館など、外出の機会をたくさん作って支援に取り組んでおられます。自分で食べたいメニューを選べる食事を楽しんでいたきたいと月に1回は外食を楽しめるように支援しておられる他、本人の趣向に合わせてカラオケに出かけられたり、自宅周辺のドライブをされるなど、利用者一人ひとりの希望を大切にされて、楽しみごとや気分転換の支援をしておられます。開設1年目ながら職員同士が助け合い連携して、利用者の楽しみを膨らませられるよう取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念にある、『みんなが家族として笑顔あふれる生活を支援する』を、念頭に日々入居者の援助をしている。理念は事務所に掲示し、又職員一人一人に配布している。	職員の思いを聞いて、「寄り添う心を大切にし、みんなが家族として笑顔あふれる生活を支援する。」「その人らしい生活実現に向け、みんなで豊かな生活を考えサポートします。」「地域福祉の拠点として、地域や家庭との結びつきを重視した運営を行います。」という理念を管理者とリーダーが作成し、事業所内に掲示している。朝礼やユニット会議で話し合っているが、全職員で理念を理解するまでには至っていない。	・職員間での理念の検討と共有	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の文化祭に参加するなど、地域の一員として行事に参加し、地域の方々と交流を図っている。また、食事や買い物などの外出を行い、地域の中での暮らしを実感できるようにしている。	開設時に自治会に説明に出向いている。公民館の夏まつりや文化祭などの行事に利用者と職員が一緒に参加して、地域の人と交流している。法人事業所合同の夏まつりには、地域の人や子供たち150人程度の参加があり、交流している。地域のスーパーへの買い物時に、地域の人と挨拶を交わしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて自治会、民生委員、婦人会、地域包括、家族の方等へ認知症について質疑応答しながらの説明、又どのような支援をしているかを報告し、理解を得ながら地域への発信を行っている。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	まずは、現在の事業所の現状を評価することにより、事業所の課題を明確にしていくとの意義は理解している。評価の結果について、一つ一つの課題の改善に向け、今後取り組んでいきたい。			
					・全職員での評価の意義の理解と活用	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて事業所報告、利用者の状況報告等を行い、参加者から助言や意見を頂き職員にその事を伝える事でサービスの向上に活かしている。	2ヶ月に1回、市担当課職員、自治会長、民生委員婦人会連絡協議会長、家族1名、地域包括支援センター職員がメンバーとなり、併設の特別養護老人ホームと合同で開催している。事業所の説明、利用者の状況、介護保険制度改正について、避難訓練の実施報告と問題点、事故・ヒヤリハット報告などを行って話し合っている。避難訓練での誘導時に中庭から施設外に出られないことがわかり、2次避難の方法やルートの検討を行っている他、夜間の避難方法についての意見があり、防災意識の向上につなげ、サービスの向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて市役所職員に参加して頂き、事業所の報告等を行い、意見や助言、又は情報交換をしながら協力関係を築いている。他には、申請等で立ち寄った際、電話での相談事等をその都度行っている。	市担当課とは運営推進会議時の他、更新申請時や運営上の相談に出向いて助言を得たり、電話で情報交換をしているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センターとは運営推進会議時に相談したり情報交換をしている他、出向いて情報交換を行っているなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について職員に説明を行い、理解を得ている。	マニュアルはあるが、研修や勉強会はしておらず、その都度、管理者やリーダーが身体拘束について職員に説明している。スピーチロックについて気になるところは、リーダーが注意している。玄関の施錠をしている。全職員が身体拘束をしないケアについて理解しているとはいえない。	・全職員の身体拘束についての理解 ・玄関の施錠を含めた身体拘束をしないケアの工夫
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内では、虐待が見過ごされることのないように注意を払っている。高齢者虐待防止関連法については、現時点では、学ぶ機会を持っていない。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活自立支援事業や成年後見制度について、対象となる利用者はいないが、今後の支援にむけて、制度の詳細について、学ぶ機会を持っていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申込、契約の際に説明し理解を得ている。理解されていない場合、納得されるまで時間を掛け説明を行い、解約の際も説明を行った上で行っている。又、改定時、疑問、相談を受けた場合はその都度説明（口頭、又は文章）を行っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口や地域の第三者委員など苦情相談体制を、ご家族へ説明を行うと共に、家族と関わる際にも聞くようにしている。また、他部署通しての苦情もその場で職員に伝えたり、ユニット会議にて伝え改善を図っている。	相談、苦情の受付体制や処理手続き、第三者委員を定め、契約時に家族に説明している。面会時や状況報告時、介護計画作成時、電話、運営推進会議時などで、家族から意見を聞く機会を設けている。家族から職員の顔と名前が一致しないという意見があり、全職員が名札をつけ、事業所内に顔写真を掲示するなど、意見を反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的で開催しているユニット会議へ参加し、職員の意見など聞く機会を設けている。個人的に相談、要望があった時などには、その都度対応を行っている。	月1回のユニット会議で職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日常の業務の中で、管理者やリーダーが聞いている。緊急時連絡網やマニュアルを各ユニット毎に設置することや、昼間のケアを充実させるための勤務時間の変更など、意見を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々のスキルや実績、生活環境等にも配慮しながら、雇用条件を決定するようにしている。また、スキルアップに向けた雇用変更など柔軟に対応するように心がけている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験やスキルを考慮しながら、研修に参加してもらい、報告する事により学んできた事を他職員に反映させている。施設内研修については、定期的に併設施設（特養）と合同で行っている。	外部研修は、職員に情報をつたえ、段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。今年度は新任、中堅職員研修と接遇研修に参加し、復命資料を閲覧している。内部研修は、事業所開設準備期に併設特別養護老人ホームと合同で外部講師を招いて、事故発生時の対応、AED講習、応急手当（消防署）、感染症、認知症の理解、接遇などについて実施しているが、開設後は実施していない。新人はマニュアルを基に日々の業務の中で学んでいる。	・内部研修の充実 ・研修記録の工夫

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設外研修の参加により、同業者との情報交換などは行っている。勉強会や相互訪問活動など、積極的な交流は出来ていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは環境等に慣れて頂くための声掛けをこまめに行い、安心して生活が送れる様に努める。その後、本人の要望等を傾聴しながら、本人の送りたい生活に少しでも近づける様に支援を行っている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込の際、入居が確定した時点で御家族の要望、意向等を伺い、それに沿ったサービスを提供する様に努めている。又、家族との話し合いの中で説明を行い、自施設で行える最善を提示し理解を得る様にしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントに基づき、御家族の要望、意向等を伺いそれに沿ったサービスを提供する様に努めている。本人には、面会時に趣味嗜好、昔していた事を確認している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所者の方の尊厳を大事にした上で関わりを持つ様に努めている。又、その時々々に直面した関係で馴染みの関係を築く様にも努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員一人一人が入所者の方の担当を持つ事で、家族への近況報告をする等関係を密にし、共に支えあう者として関わりを築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも家族の面会が出来るように、自由に出入りが出来るように努めている。馴染みの場所についても、外出の機会を作り、関係性が保てるようにしている。	家族や親戚の人、友人、知人の来訪がある他、電話での交流を支援している。自宅周辺の馴染みの道をドライブしたり、家族の協力を得て行きつけの理容院の利用、買い物、墓参り、法事への参加、外食などを支援し、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しない様に職員が間に入り入所者同士の橋渡しを心掛けている。又、入所者同士が関われる場を常に提供(レクや外出、行事等)出来る様に考えている。但し、一人になりたい場合もあるので強制はしない。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後にも本人、御家族にお会いする機会が有り、その際に近況等を必ず伺う。入院等での契約終了の場合も面会に行く事もあり、その際はCWや看護師等に近況を伺う場合もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との面談時や入所時の意向を基に、本人との関わりを職員一人一人、又は担当が多く持ち、本人の思いや希望などを見出しながら支援するように努めている。	入居時に本人の意向や趣味、嗜好、昔していた事などをフェースシートに記録している他、日常の関わりの中で気づいた事を利用者を担当する職員がユニット会議で伝えて話し合い、困難な場合は家族から得た情報や本人の様子から職員間で話し合っって本人本位に検討している。思いや意向の把握が十分とはいえない。	・思いや意向の把握の工夫
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントに基づき、本人との関わりや、施設での生活習慣を観察しながら、施設の中での本人の望む暮らしの実現に努めている。又、御家族からの情報を基に全職員で把握する様にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子観察や御家族からの情報を職員間で伝え合い把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当職員で1ヶ月の本人の様子、状態、状況ををまとめた上で各部署の職員にて検討し、それに応じた対応が出来るよう計画作成している。又、家族の意向も必ず伺い、計画に反映できるよう努めている。	月1回カンファレンスを開催し、本人の意向や家族の要望、主治医や看護職、厨房の栄養士等の意見を参考にして、介護支援経過の記録を基に、計画作成担当者や利用者を担当する職員を中心に話し合い、介護計画を立てている。短期計画を3ヶ月ないし6ヶ月、長期計画を認定期間として作成し、更新時に見直しをしている。1ヶ月または3ヶ月毎にモニタリングを実施し、状態の変化に応じて見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過記録、申し送りノートを活用し、職員間での情報共有を図っている。その上でカンファレンスを行い、統一した支援を行っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人らしい生活を尊重し、出来るだけ希望に沿った支援を行う為に、場合によっては他事業所のあらゆる職種のスタッフに関わってもらうなど、柔軟に対応出来るようにしている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安全で豊かな暮らしを楽しむことが出来るように、外出を行い、地域の中での暮らしを実感できるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回内科医による往診あり。随時状況報告し、入所者の方の健康管理を行っている。御家族が希望されているかかりつけ医については、家族の付き添いにて、定期的に受診をして頂いている。その際、必ず状況等の報告をしている。	本人や家族の同意を得て、協力医療機関をかかりつけ医とし、週1回の訪問診療を受けている。協力医療機関以外の受診は家族の協力を得て支援をしている。受診情報は看護師が集約しており、介護業務日誌に記録して職員が共有している他、家族にも電話で伝えている。緊急時には看護職と協力医療機関が連携して対応するなど、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤として勤務しており、入所者の健康管理、薬の管理、受診対応、医師への連絡、報告等を行っている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院の場合、定期的に病院へ面会に行き、相談員や看護師など病院関係者と情報交換に努めている。また、その他電話連絡等により、関係を築いている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期や医療行為の必要性は申し込み、入所契約時に家族に説明し家族の意向を確認している。重度化した場合も、家族と相談しながら、対応を検討している。	契約時に事業所でできる対応について、他施設への移設も含めて家族に説明している。実際に重度化した場合は家族や主治医、看護師等関係者と話し合い、方針を共有して支援に取り組むこととしている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	救急対応、応急処置は開設当初に内部研修にて実施している。事故防止はヒヤリハット、事故報告書を基に随時行っている。	事例が生じた場合は、その場の職員で対応策や再発防止策を検討し、ヒヤリハット、事故報告書に記録して閲覧し、ユニット会議で検討している。事業所開設準備期に、消防署の協力を得て事故発生時の対応や応急手当、AED講習を受講し、急変時対応マニュアルの検討と訓練を1回実施しているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための 応急手当や初期対応の定期的訓練 の継続

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施している。地域との協力体制については、今後運営推進会議等を通し、検討をしていく予定。	消防署の協力を得て、年1回、法人合同で昼間を想定した火災時の避難訓練を利用者も参加して実施している。緊急時の連絡網を作成しているが、連絡訓練や通報訓練はしていない。運営推進会議で議題として取り上げ、2次避難の方法や避難経路の検討などを行っているが、地域との協力体制を築くまでには、至っていない。	・地域との協力体制の構築
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇面を特に気を付け、異性による支援、介護の場面において、利用者の羞恥心を考慮し、本人もしくは御家族希望時には、同性にて対応するようにしている。	外部研修の接遇研修に参加しているが、復命報告の機会がなく、職員間で共有するまでには至っていない。誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めているが、全職員が意識的に取り組んでいるとはいえない。	・人格の尊重とプライバシーの確保のための研修の充実
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の様子観察と本人との会話で要望、希望を確認している。又、本人と関わる事で馴染みの関係を築き、要望・希望を言い易い雰囲気を作っている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活ペースを念頭に、朝の起床、入浴の時間、レクリエーション等の強制参加をせず、本人の趣旨思考に沿って支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは本人の意向を確認しながら助言、又は職員にて支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は入所時に本人の嗜好を確認し、時には嗜好に沿った食事の提供に努めている。準備片付けは、強制的に行わず本人より希望有方のみ手伝ってもらっている。	ご飯は事業所で炊き、副食は三食とも法人の厨房からの配食を利用している。利用者の状態に合わせておかゆなどの形状で提供している。利用者は下膳や食器洗いなどできることを職員と一緒にしている。季節の行事食や祝膳、おやつづくり(たこ焼き、ホットケーキ、白玉団子など)、本人が食べたい物を選ぶ外食(月1回)、家族の協力を得ての外食など、食事を楽しむことができるよう支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は栄養士のもと献立し提供している。水分は適時補給を行い、チェック表に記載し確認を行っている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア、起床時、毎食後に声掛けや誘導にて行ってもらう。又、協力医である歯科に定期的に往診にて口腔内をチェックしてもらっている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	紙オムツの使用は基本夜間のみで日中はトイレでの排泄を心掛けその都度声掛け、誘導を行っている。又、羞恥心を考慮し異性による支援でなく同性による支援も職員間で注意し行っている。	排泄チェック表を活用し、一人ひとりのパターンを把握して、言葉かけやプライバシーに配慮して誘導し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の摂取や、飲物での工夫を栄養士に相談し、連携を取りながら行っている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日は固定しているがその日の状況にて行う場合もある。時間は、一応声掛けは行うが本人の要望に合わせて入浴を実施している。(場合によっては夜間入浴も実施)	入浴は、月・水・金としているが、毎日でも可能で、利用者の希望する時間に、本人の希望やタイミングに合わせて入浴できるように支援してる。入浴をしたくない人には声かけの工夫をしたり、曜日の変更をしたりしている。本人の状態に合わせて、清拭やシャワー浴での対応もしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ日中夜間のリズムを作る為に日中は起きてもらう様に支援し、本人のペースに合わせ休息も行う。夜間は眠前薬だけに頼らず、飲物等で安眠を促すようにしている。眠れない方については寄り添いながら職員と共に過ごし様子観察する。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報はファイルにて綴っており、職員が常時確認把握出来るようにしている。服薬による状況変化は看護師と連携しながら医師への報告を行い薬の調整を行っている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者さんとの日々の関わりにて本人が出来る事を把握し、本人にて行える事は本人に行ってもらおう。又、本人からの要望があれば出来るだけ要望に応える様に支援している。	テレビ視聴、本読み、風船バレー、カラオケ、トランプ、パズル、ぬり絵、折り紙、貼り絵、絵、囲碁、将棋、壁面飾りづくり、おやつづくり、洗濯物たたみ、下膳、食器洗い、花壇づくり、草取り、新聞紙のゴミ袋づくりなど、活躍できる場面づくりをして、楽しみごとや気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員のその日の配置や、入居者さんの体調、天候により、外出をするよう心掛けている。	道の駅めぐり(鹿野、湯野、秋穂、阿知須など)や花見(梅、桜、コスモス)、長沢ガーデン、海響館、県立美術館、長門峡、維新公園、天神様、毛利庭園などへの外出の他、一人ひとりの希望に添ったカラオケや外食、自宅周辺のドライブ、家族の協力を得ての買い物や墓参り、法事への参加などを支援している。公民館の夏まつりや文化祭、周辺の散歩やスーパーでの買物など日常的に外出を支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金のお金を外出行事の際に所持し、日用品の購入など買い物の際に、支払いの出来る方については職員見守りにて行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時や、御家族からの電話にて本人と御家族の関係を保つ橋渡しとして支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節折々の飾り付けや、入居者さんと作った壁面や思い出の写真を貼っている。家庭的な空間を考慮し、テレビ前に畳を敷いたりソファを設置している。	大きな窓から陽ざしが入るリビングは明るく、大型のテレビやソファ、椅子をゆったりと配置し、廊下の突き当たりにあるソファや畳のコーナーなど、一人ひとりが好みの場所でくつろぐことができる。壁面にはクリスマスの飾りや利用者がつくった季節の貼り絵、行事の時の写真などを飾っている。台所からはご飯を炊く匂いがして生活感を感じることができる。温度や湿度、換気に配慮して、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同スペースにおいては、入居者一人一人の席は決めておらず本人の意思にて座って頂く。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、御家族の要望により、自室には馴染みの物を置いておられる方もいる。こちらから、排除、持ち込みの拒否は行わない。	テレビ、机、椅子、衣装ケース、衣装かけ、本、ぬいぐるみ、時計など使い慣れたものや好みのものを持ち込み、家族の写真、自分の作品、木彫りの額、観葉植物、花などを飾って、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々の様子観察にて入居者さんに必要な物、又は不必要な物を考えながら必要に応じてレイアウト等を行っている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム あかつき防府

作成日：平成 27年 10月 16日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	1	職員間で理念の浸透ができていない。	理念を職員間で考え共有し、その思いに添って仕事が行える	各職員で理念を検討し各自に配布する。 新入職員にはその都度入社時に必ず理念を伝える。	半年
2	4	全職員での外部評価の意義や理解ができていない。	全職員が自己・外部評価の意義を理解し取り組む	外部評価の意義を全職員に資料配布の上传え理解する。	半年
3	7	身体拘束についての理解ができておらず、内玄関を常時施錠して開錠できていない。	身体拘束を理解し常時施錠への廃止	定期的に身体拘束についての内部研修を行い、全職員の身体拘束への理解の下に常時施錠を廃止する。夜間と人数が多い日には開錠する。	1年間
4	14	定期的研修(内部・外部)が十分にできておらず研修記録も不十分。	内部・外部研修の定期的実施	毎月1回ユニット会議での内部研修実施する。 毎月職員担当職員を決め、議題を書く職員に前の月で募り当月研修を実施する。	1年間
5	24	本人の意向が記録されていない。サービス計画書見直しの際や関わった際。	サービス計画見直しの際の本人意向確認記載。本人と関わった際の意志等の記録の徹底。	本人の意向等うかがえた場合にはその都度支援記録に記載する。サービス計画等の見直しの際には必ず本人の意向鵜を確認し計画書に記載する。	半年

6	35	新規職員等の応急手当や初期対応の定期研修ができていない。	新規職員による応急手当や初期対応の定期研修(緊急マニュアルの把握・対応)	新規職員には入社時、ほかの職員については年1回は必ず応急手当や初期対応の研修・実施を行う。	1年間
7	36	災害時等の避難時の地域との協力体制ができていない。	災害時等の地域による協力体制の構築	運営推進会議等の自治会の方が参加の際に協力体制の依頼。地域での災害時の避難等の把握。施設での災害時の避難の報告。運営推進会議への消防職員の定期的参加。	1年間
8	37	研修による復命報告の機会がなく職員間での共有不足。	研修による復命報告を行い、職員間での共有化。 人格の尊重とプライバシーを意識した関わりができる。	研修の復命報告を各ユニット会議の際に行う。	1年間

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。